

令和6年度 小平市立花小金井小学校 学校評価報告書

学校教育目標

人権尊重の精神を基盤に、人間性豊かでたくましく生きる児童(かしこく つよく やさしい子)を育成する

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 未来への夢や希望が抱け、学ぶ楽しさがいっぱい为学校
- 【目指す児童・生徒像】 主体的に問題解決に取り組み、自分の考えを表現できる児童 健康でたくましい心身をもち、目標に向かって粘り強く努力する児童 自分も友だちも大切に作る児童
- 【目指す教員像】 教育公務員としての自覚と責任をもち服務に厳正な教師 こどものよさや可能性を語る教師 授業改善に向け研鑽に努める教師 学校経営に対する参画意識をもつ教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

- 【成果】いじめ対策について、校内委員会や職員夕会で児童の情報を教職員が共有し、未然防止・早期対応ができた。またロイロノートを中心にICT機器を授業で効果的に活用することができた。
- 【課題】業務の軽減や効率化を進め、教職員一人一人がライフワークバランスを考え仕事を行うことができる職場環境をつくる必要がある。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	朝学習、漢字・計算ドリルや東京ベーシックドリルの取組	4	2	朝学習は国語の漢字の定着や小単元の学習の実施に効果的だった。登校してから朝学習開始までの時間が短く慌ただしかった。	4	3	朝、短い時間に集中して取り組める学習は効果的だと思う。継続してもらいたい。 ・ほとんどの児童が学習者用端末を使いこなしていた。正しい使い方・活用方法も合わせて指導してもらいたい。	朝学習で国語の漢字や小単元を実施したことで、通常の授業でも単元を効果的に実施することができた。朝学習の開始が慌ただしくなることについては、教室への入室時間を早くするなど対応していく。
	授業におけるICT機器の活用	4	4	ロイロノートの活用により、児童に情報を集めたり、整理したり、まとめたりする力が付いてきている。学級によって使用の差があり、研修会を行う必要がある。	4	4		児童が、授業の中で友達の考えを共有し、自分の考えを深めることができるようになってきている。学習者用端末を学習以外に使用した児童もいたため、花小ルールを見直し、保護者とも連携して、情報リテラシー教育を行っていく。
健全育成(いじめ防止)	毎月のいじめ調査、対策委員会の実施	2	2	毎月のチェックリストの活用により、いじめの未然防止に努めることができている。学年が異なると児童の実態把握がわかりづらいため、学校全体で共有して対応していくことが必要である。	4	3	・小さいいじめまで丁寧に対応していて安心した。今後もこどもの声を大切にしていってほしい。 ・異学年交流はどの学年の児童にとっても大切な経験ができた機会として今後も継続してもらいたい。	生活指導夕会やいじめ対策委員会で児童の情報を共有することができ、迅速な対応につながった。認知件数は昨年度より増えているが、全件解決することができている。今後も未然防止、早期発見、早期対応に努めていく。
	なかよし班、委員会、クラブ活動など異学年交流や体験活動の充実	3	4	児童が主体的に取り組もうとしている様子が見られた。なかよし班活動が行事の関係で1学期に実施することができなかった。通常の教育活動の中で異学年の交流を組み込んでいく。	4	4		さまざまな活動の中で、6年生が主体的に計画・実施ができていた。異学年交流を通じて、こどもたちにとって充実した体験ができた。実施時期については偏りがないように計画していく。
健康づくり	「持久走タイム」「なわとび旬間」等の実施	2	4	校庭の増築棟の工事により外遊びが制限される中、積極的に外遊びをする児童が多かった。またWBGTが危険な日でも体育館で運動することができた。2学期には全校の取組も実施していく。	2	4	・体育館を使うなど、運動の機会確保に尽力したことは評価できる。 ・怪我だけではなく保健室は居場所としても重要なので、利用率にはこだわりの必要はない。	校庭の工事の関係で、外遊びが制限される中、持久走や縄跳びの取組は、児童の体力向上には効果的であった。工事後の校庭の広さを把握し、安全に外遊びが実施できるよう工夫していく。
	各学級での健康・安全指導、児童・保護者への啓発	3	2	体育の学習では柔軟体操も取り入れ、怪我の予防に努めた。2学期以降、養護教諭による保健指導を行いさらなる充実を図る。	4	2		養護教諭による保健指導は、資料もわかりやすく児童にとってよい学習となった。今年度は外遊びができないためか室内での怪我が増加した。校舎内での過ごし方については継続して指導をしていく。
保護者・地域との連携	保護者の会、学校経営協議会の健全育成、学校支援ボランティアの活用	4	3	体力テストなど保護者の方に支えられ活動を行うことができた。今後もコーディネーターと連携し、活動を活性化していく。	4	4	・ボランティアが集まったことは良かったが、その方たちの満足などを調べ、内容の見直しを図れるとよい。 ・外部人材の活用は、児童にとってよい経験となるので、カリキュラムに無理のないように継続してもらいたい。また、活動の様子をHP等で報告してほしい。	年間400人を超えるボランティアの方に協力していただき、学校行事を円滑に実施することができた。参加者のご意見を伺って改善しながら、今後も保護者や地域と協力して教育活動を充実させていく。
	各学年で年間1回以上の実施	3	4	地域や外部の専門家の方をゲストティーチャーとして招くことで学びが深まった。2学期以降も外部の方から学ぶ体験を企画するとともに外部人材シートを整備し、引き継げる体制をつくる。	4	4		全学年で1回以上、地域や外部の専門家の方をゲストティーチャーとして教育活動を実施することができた。次年度以降も充実した体験となるよう計画を進め、活動後の発信も行う。
業務改善・働き方改革	個々の目標設定、分掌マニュアルの作成、人材の活用	3	3	分掌マニュアルがあることで、仕事内容が明確になり、取り組みやすかった。会議の縮小化・精選については、引き続き検討していく。	4	3	・個々に目標を設定することで、自分なりの業務の効率化が進んだのではないかと。成功例や困ったことなど共有することも必要である。	会議内容の精選やペーパーレス化などが昨年度より定着してきた。職員の意識も高まってきている。今後も、会議の精選(学期中の職員会議ゼロ)や校務支援システムの掲示板の活用による職員夕会の短縮など、さらなる効率化を図っていく。
	SSS等支援スタッフの活用、出退勤管理システムの活用、定時退庁日・学校一斉閉庁日の実施	4	2	月の時間外勤務が45時間以上にあたる職員は24.1%であった。今後も引き続き、さまざまな支援を活用して時間外勤務の減少に努める。	4	4	・様々な人材を活用することで業務改善を図り、こどもたちとの時間を大切にもらいたい。	月の時間外勤務が45時間以上にあたる職員は年間を通して、18.4%で昨年度より減少している。今後も職員一人一人がワークライフバランスを意識して仕事ができるよう推進していく。